

研究会報告

色彩教材研究会
第9回研究発表会 報告

永田 泰弘 (研究会主査)

色彩教材研究会の第9回研究発表会が、2013年3月16日(土)、13:30～15:45、東京都新宿区の中央理美容専門学校において開催された。

研究発表件数が6件、口頭発表とともに、会場内の壁面にポスター展示も行い、実物を示すことが大切な教材研に相応しい発表となった。参加者は24名であった。

22頁の発表要旨集は全研究会員に配付するように印刷を行い、後日、送付した。要旨集は学会会議室でも閲覧できる。また、学会のホームページの色彩教材研究会教材ひろば欄にも図版の一部を掲載している。

発表の要旨を以下に紹介する。

1. 「観せることで魅せられる色彩教育の一例

～ニュートン「光学」とゲーテ「色彩論」の対比的ビジュアル提示～

市場丈規

色彩教育では、観せることなしに理解を深めることも興味を喚起し、色彩への魅力を伝えることもできない。「どう観せるか」、「どう魅せるか」が、色彩教育で問われている。

ニュートンの功績は改めて記述するまでもないが、ゲーテが「色彩論」教示編で示した色彩に関する数々の観察実験は、今も全く色褪せぬ魅力に満ちている。

ニュートンの「光学」やゲーテの「色彩論」を読み進める上で、有効なビジュアルツールとして使用したものを以下に示す。

小樽切子ガラス、天然のグラスファイバーウレクサイト、簡易スペクトル観察器、ニュートンゴマ、ゲーテのプリズム観察器および観察図版、方解石、偏光板、偏光観察器、ミミガイ、プロジェクターとスリットを使った回折縞、ニュートンリング観察器、銅の焼きなまし、サンシャインクオーツ、ラブラドライト、玉虫色観察キット、青磁、常滑焼、黄瀬戸、弁柄塗、土壁漆喰、虹色のチャルコパーライト、本紅、貝紫染め、

モルフォ蝶、直島(ジェームスタレルの作品紹介)、碁石、残像画像、有色の陰影(色陰)観察キット、赤い部屋&青い部屋(金沢学院短期大学・画像)等で、実物が展示され、手に取って観る貴重な機会が作りだされた。

2. 色彩教材『(続)一目瞭然 配色と色彩調和など』

金子尚史(NPO事務局 自然写真家)

AFT検定にしろ、東商検定にしろ、色彩の資格を受験する者にとって、いろいろな表色系や色彩調和論など、また、それに関する色彩用語を勉強するとき、それらの間には類似点や相違点が数多くあるために、頭の中にすっきりした形で定着させるのは、なかなか苦労させられる。

そのようなときに、これらの類似点や相違点を、できるだけ表にしたり、図に表わしたりして、「一目瞭然」で理解できるように工夫してみると、短時間のうちに、とても容易に覚えられる。

色彩資格の取得を目指している受験生のために、少しでも役に立つ色彩教材が出来ないものかと考えだされたのが、この『一目瞭然シリーズ』である。

昨年度に発表した「表色系」と「系統色名」の続編として、今年度は(1)配色、(2)色彩調和論、(3)色彩心理、(4)色彩効果の項目について発表された。

3. 「XYZ表色系—XYZ表色系の概念を理解スルー—」

大倉素子(色彩教材研究会会員)

色彩教材研究会のモンジュノーチェ・モチョロー会で、2012年度の課題として、数式を使わずにXYZ表色系の概念を理解させることを目標に、活動を続けてきた。

数式を使用しても、使用しなくても難解であるXYZ表色系を、画像を中心に感覚的に理解し易いような概念の流れを組み立て、教え方の1つのモデルとしてまとめられていた。

未だ試行錯誤の段階であるが、画像はモンジュノーチェ・モチョロー会で配布された多数の資料及び、北畠耀著「色彩学貴重書図説」の中の画像が使用されて組み立てられていた。

4. 経験して理解する、XYZ 表色系の授業と教材

塚本由紀江(色彩教材研究会会員)

色覚説や RGB 表色系、XYZ 表色系などについて見直し、教材を検討した上で授業を実施し、学生の反応を確認した結果の発表である。

XYZ 表色系の学習の際、学習者の傾向は主に以下の1と2のタイプに分かれると推測される。

1は、用語をしっかりと暗記し、試験をそつなくこなすタイプ。

2は、実在しない色、実在しない光、実在しない観測者、Y 値だけが明るさを持つことなどに実感が湧かず疑問を抱くが、疑問が消えないまま学習が終わり、XYZ 表色系に苦手意識を抱くタイプ。

今回は、2のような学習者の知的好奇心を刺激し、学習意欲を向上させることを目的とし、教材を検討し、「XYZ 表色系を完全に理解する」というレベルを目指すものではないが、「少しでも身近なものとして実感することにより、学習者が XYZ 表色系に対する苦手意識を抱くことなく、学習の必要性を感じることが出来る傾向にあることが認められるように実践した授業内容の概略が発表された。

5. 色立方体を利用した色の3属性と配色効果の基礎学習

光武智子(日本デザイナー学院)

合原勝之(アイハラ・デザイン・オフィス)

吉澤陽介(Evolutional Blue)

色彩学習では、ポスターカラーや調色された色紙を使用することが一般的である。

本発表では、各面に彩色を施した色立方体が使用された。サイズは一辺45ミリメートル、素材は水彩紙で、色材の扱いやすさに留意されている。

1つの色立方体は同一色相の6トーンで彩色され、9色相分、合計9個の色立方体を制作させている。

演習課題では、色彩の共通点と相違点に注目して、簡単な配色練習を行っているが、この学習法の狙いは、以下の2点である。

1. 色相とトーンの関係の理解を促す。
2. 様々な色彩の対比効果(3属性の類似/対照)を短

時間で体験させる。

演習後のアンケートでは、「コロコロころがしてみながら、色々な組み合わせをやってみて、多くの組み合わせがあつておもしろい」、「同一色相でもトーンを変えることで全く違う表情になる」、「色の深さ、うすさがわかりやすく、とても勉強になった」など、示唆に富む回答が多く得られたとの発表であった。

6. 配色講座における演習の一例

永田泰弘(色彩教材研究会顧問)

色彩調和論は、多くの人が提唱しているが、決ったルールがあるわけではなく、教え方に決まりがあるわけでもない。

配色の技法を教える講座の中で、以下のようなプロセスで講義を行った結果の報告である。

第一段階で、配色演習を行う際に使用する色群を指定するが、色票が容易に準備出来るPCCSから、ストロングとソフトの2トーンを除外し、無彩色5色を加えた125色を指定し、各自は色票を貼った一覧表を作る作業を行う。

第二段階で、複数のイメージワードやテイスト名を示し、それらに相応しい一色を125色の中から選ぶ作業を行う。

第三段階で、女性のスーツ姿の線図と、配色目的とするイメージワードを示し、ジャケット、スカート、ブラウスの色を125色の中から選んで、3色配色のカラーデザインの提案をさせる。

第四段階で、16案集まったデザイン図を、4案を1単位にして、配色目的に相応しい2案を選ぶ投票によって8案に絞り、同様に4案、2案と絞り込み、最後にベストの1案を選ぶ評価を行い、評価方法の重要性を認識するように誘導した演習講座の体験報告である。